

J - クレジット制度管理者 御中

実績確認概要書

平成30年9月7日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	高周波誘導炉への更新プロジェクト
承認番号	KC0405
排出削減事業者名	株式会社センシュー
排出削減共同実施事業者名	株式会社F Tカーボン (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	株式会社センシュー (住所：〒596-0013大阪府岸和田市臨海町20番地の1)
事業の概要	電気式低周波誘導炉（金属加熱炉）3基およびコークス式キュポラ（溶解炉）1基を、各々電気式高周波誘導炉4基へ更新する。工業炉を更新することにより、工業炉の高効率化による燃料使用量の削減及び低炭素燃料へのエネルギー転換によって、CO2排出量を削減する。
排出削減	【全電源二酸化排出係数】 2010年度： 7,176 tCO2 2011年度： 7,081 tCO2 2012年度： 7,081 tCO2 2013年度： 5,782 tCO2 2014年度： 5,967 tCO2 2015年度： 6,233 tCO2 2016年度： 6,406 tCO2 2017年度： 6,406 tCO2 2018年度： 807 tCO2 (事業実施期間合計 45,763 tCO2)
クレジット認証期間	開始日 2010年5月17日 終了予定日 2018年5月16日
排出削減方法論	方法論番号003: 工業炉の更新

2. 本実績確認の対象期間

2016年4月1日～2018年5月16日（第5回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	17,028 tCO ₂ (2016年4月1日～2018年5月16日)
-------	---------------------------------------------------

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 電力使用量並びに鋳込み量の集計データ及び事業者へのヒアリングにより、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 電力使用量並びに鋳込み量の集計データ及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、モニタリング方法が方法論及び当該削減計画に沿って実施されていたことを確認した。 2) 活動量の正確性 電力使用量並びに鋳込み量の集計データ及び排出削減事業関係者へのヒアリングにより、電力使用量並びに生産量の記録・保存は適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。 3) 単位発熱量、排出係数等の確認

	<p>電力使用量並びに鑄込み量の集計データ及び、事業者へのヒアリング並びに J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.3.2等により、排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 排出削減量の算定結果を電力使用量並びに鑄込み量の集計データとの突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に誤りはないことを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2016年4月1日から 2018年5月16日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2018年5月16日となっているため、クレジット認証期間の終了日を超えないことを確認した。□</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

今回の検証において承認排出削減事業計画から変更がされていたが、排出削減事業計画に影響する事象はなかった。

6. 特記事項

- 本実績確認期間における省エネルギー量がないことを確認した。
- 前回 CO2 削減量：6,648tCO2/年。今回 CO2 削減量:8,013tCO2/年で 20.5%増加している。原因として、①生産量の増加：前回 3,751,587(月平均)、今回 3,966,063(月平均)で生産量増加率 6%。並びに、②電力排出係数、前回 0.559、今回 0.516 で電力排出係数改善率 8% が寄与していると推定する。

以上